

札幌市委託事業

誰もが住みやすい あんしんのまち コーディネート事業



SAPP_RO

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

はじめに

災害に備えた地域での支え合い

～誰もが住みやすいあんしんのまちを目指して

平成 23 年に発生した東日本大震災や平成 30 年に発生した北海道胆振東部地震、相次ぐ台風の大雨による被害など、近年日本各地で未曾有の災害が発生しており、災害を他人事として捉えるのではなく、我が事として継続して考えなければなりません。また、災害が発生した場合の避難や近隣住民・支援者による避難支援、さらにはその後の避難生活においては地域の助けである「共助(※1)」が重要な役割を果たすことから、障がいのある方にとっても、日頃の備えと同時に、地域との関わりや避難について考えておくことが大切です。一方、災害対策基本法の改正により、札幌市は町内会・自治会等の申請に応じて『避難行動要支援者名簿情報(※2)』を提供できるようになり、避難支援の重要性が高まり、地域での取組が行われてきております。

そんな中、札幌市では障がいのある方が安心して避難できるよう、平成 28 年度より町内会・自治会等の取組を側面支援する「誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業」を開始しました。本事業では、町内会・自治会等に対して、障がいのある方の避難支援にあたっての留意点を解説する、避難支援計画の作成方法をお手伝いするといった活動を行っています。

災害に備えた地域での支え合いから、誰もが住みやすいあんしんのまちを目指して、お一人でも多くの方にこの事業を活用していただければ幸いです。

令和元年 12 月 札幌市保健福祉局障がい保健福祉部障がい福祉課

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

※1 共助：災害発生時に家族や近隣住民と助け合うこと

※2 避難行動要支援者名簿情報：災害発生時の避難等に特に支援を要する方に関する情報

誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業とは

障がいのある方の支援の専門家がコーディネーターとして、障がい

のある方の避難支援計画の作成等を支援します！

障がいのある方の避難支援で、お困りのことはありませんか？

- ◆ 避難行動要支援者名簿情報の提供を受けたが、障がいの種類によって、どのような接し方をすればよいのか分からない。
- ◆ ○○の障がいのある方の個別避難計画を考えたいが、どのような配慮を行ったらよいのか分からない。



本事業では、災害が発生したときに障がいのある方の避難支援を行う町内会・自治会、地区社会福祉協議会（福祉のまち推進センター）、障がいのある方の団体等に対して、障がいのある方の支援の専門家がコーディネーターとして、障がいある方の避難支援を考えるにあたり、助言を行う等、地域での災害に関する取組の支援をします。

コーディネーターが可能な支援



- ◆ 支援に当たっての留意点等の助言
- ◆ 避難行動要支援者とのマッチングへの助言
- ◆ 各避難行動要支援者の個別避難支援計画への助言
- ◆ 避難訓練への助言 等

※ 要支援者にお会いする場合はご本人の了解をいただきながら進めさせていただきます



平成 30 年度の主な活動内容

- ◆ A 町内会の防災訓練に参加し、障がいのある方の避難支援の際の留意点について講演しました。
- ◆ B 町内会に対して、地域の障がい者相談支援事業所と連携し、避難訓練の企画案へ助言。避難行動支援者名簿に記載された3名の障がいのある方（視覚障がい、身体障がい）への支援を実際に行いました。
- ◆ 障がい福祉団体 C と災害に関する研修会を実施。避難行動要支援者名簿、町内会での災害に関する取組を講演しました。
- ◆ 障がい福祉団体 D と災害に関する研修会を実施。要配慮者全般の配慮点について講演、要配慮者も参加し、段ボールベッド体験を行いました。
- ◆ E 地区福祉のまち研修にて、障がいある方の避難支援について講演しました。
- ◆ 障がいのある方の支援事業所 F と災害に関する研修会を実施。災害時の障がいのある方への避難支援の基礎知識、地域での取組事例を講演。北海道胆振東部地震の際を振り返り、今後災害に備えてできることの意見交換を行いました。
- ◆ 例年、各町内会長・自治会長等を対象に、「災害に備えた地域での支え合い研修会（※）」を開催しています。

※ 「災害に備えた地域での支え合い研修」とは、災害時における障がいのある方の避難支援に関する理解を深めてもらうため、参考となる町内会・自治会等の取組を多くの方に知ってもらうことを目的に、本事業で毎年1回開催している研修です。開催については、毎年ご案内いたします。



誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業の利用方法

コーディネーターによる支援を希望される方、本事業の詳細を聞きたい方は、以下にご連絡ください。なお、支援費用はかかりません。

◆ さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

住所：札幌市中央区南8条西2丁目 市民活動プラザ星園 302号

電話：011-213-0171 ファクシミリ：011-213-0172

メール：sapporo@one-all.net

ホームページ：<http://one-all.net/>（「札幌 ワン・オール」で検索）

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オールとは

本事業は、札幌市から札幌市基幹相談支援センターである「さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール（通称ワン・オール）」に委託されているため、支援を実際に行うコーディネーターはワン・オールに配置されています。

ワン・オールの主な仕事は、障がいある方やそのご家族などへの支援を行う相談支援機関等の後方支援と地域生活支援の体制づくりです。たくさんの方々と協働しながら、誰もが安心して生活できる地域づくりを推進しています。

日頃から障がいのある方に関わり、相談支援専門員として活動しているコーディネーターが、町内会・自治会や障がい福祉サービス事業所を支援いたします。

コーディネーターは、相談支援専門員のほか、社会福祉士等の資格を持っている、障がいがある方の支援の専門家です。



過去の取組事例の紹介①

清田区 絆の会

地域の概要

絆の会は、全国各地で津波、地震、洪水等の大災害が発生していることから、平岡9条2丁目にお住まいの有志の方々により、住民が安心して暮らせる地域社会を構築するために結成された会です。昭和56年に宅地が造成され、現在は約50軒がある地域で、最近が高齢の方の割合が高くなっています。

取組体制

絆の会では、住民が安心して暮らすためには、「向こう三軒両隣」がお互いに、何気ない気遣いの心を持ちあわせることが大切だと考えています。

12名（平成29年11月現在）の有志の方々に構成されており、災害時の安否確認や避難支援の活動を行うとともに、日常生活で不便（例：ゴミ出しや落雪の除去等軽微な作業）を感じている世帯の手助けなどの活動を行っています。

誰もが住みやすいあんしんのまち

取組体制コーディネート事業への依頼内容

- 町内の要配慮者（車椅子利用・失語症の方）に関する災害時要配慮者避難訓練を検討しており、計画の配慮点などを教えてほしい。
- 当事業の内容について教えてほしい。

誰もが住みやすいあんしんのまち

取組体制コーディネート事業にて支援した内容

まず、関係者打ち合わせに参加させていただきました。

打ち合わせには要配慮者の関係者（ケアマネージャー、病院、デイサービス、包括）、行政職員（区役所の活動推進担当係長、地域安全係、保健支援係）の方も参加されました。

普段、車椅子で生活されている要配慮者を災害時に安心・安全に避難支援するため、近隣住民にはどのような活動が必要か、全員で検討しました。

その中で、要配慮者の生活においてお手伝いを必要としているポイントを整理・共有し、避難訓練の際には具体的な介助に関しての実技付のミニ講座を行うこととしました。

避難訓練当日は、病院スタッフから車椅子の利用方法、要配慮者のお手伝いのポイント等を具体的に教えていただきました。



介助経験の少ない参加者の方も自信が付き、要配慮者の方もとてもリラックスして、安心した様子で参加することができていました。

実際に要配慮者の方に対する避難訓練を実施できているところは多くありません。絆の会の取組は、一般的な避難訓練ではなく、個別の要配慮者のための避難訓練を実施されたことに特長があります。このような取り組みが今後ますます求められると強く感じました。

後日、当事業より個別避難計画のモデル案をご提案させていただきました。



ミニ講座：片麻痺の方の移動介助の様子



避難訓練：車椅子に乗車したまま段差を降りる介助の様子



過去の取組事例の紹介②

手稲区 手稲千代ヶ丘北町内会

地域の概要

手稲千代ヶ丘北町内会は、手稲本町4条2丁目から5条2丁目を中心に構成される町内会です。世帯数は約400世帯となっています。団地、戸建て住宅が多い地域です。

取組体制

町内見守り活動を行っており、日々の見守りの活動の他に町内を5ブロックに分けて役員・班長で月に一度「見守り活動巡回」を行っています。

また、災害時の要介護者や障がいのある方に対する「災害時支え合い活動」の取り組みも積極的に進めており、独自に「災害時支え合い活動取り組みステップ」(別添)を作成し、その計画をもとに町内会での取り組みを進めています。この活動ステップを一覧表にした取組は、これから取組を開始する町内会にとって大変参考になるモデルケースだと考えています。

誰もが住みやすいあんしんのまち

取組体制コーディネート事業への依頼内容

- 避難行動要支援者名簿の提供を受けたため、避難支援者等を対象に障がいのある方の支援について教えてほしい。

誰もが住みやすいあんしんのまち

取組体制コーディネート事業にて支援した内容

拡大役員会にお招きいただき、障がいのある方への接し方、留意点についてお話しさせていただきました。

町内会として「見守り活動の実績や認知症サポーター研修の受講等により、高齢者への対応は一定程度慣れているが、障がいのある方への対応は未習熟な状態だったので、大変参考になった」とご感想をいただきました。

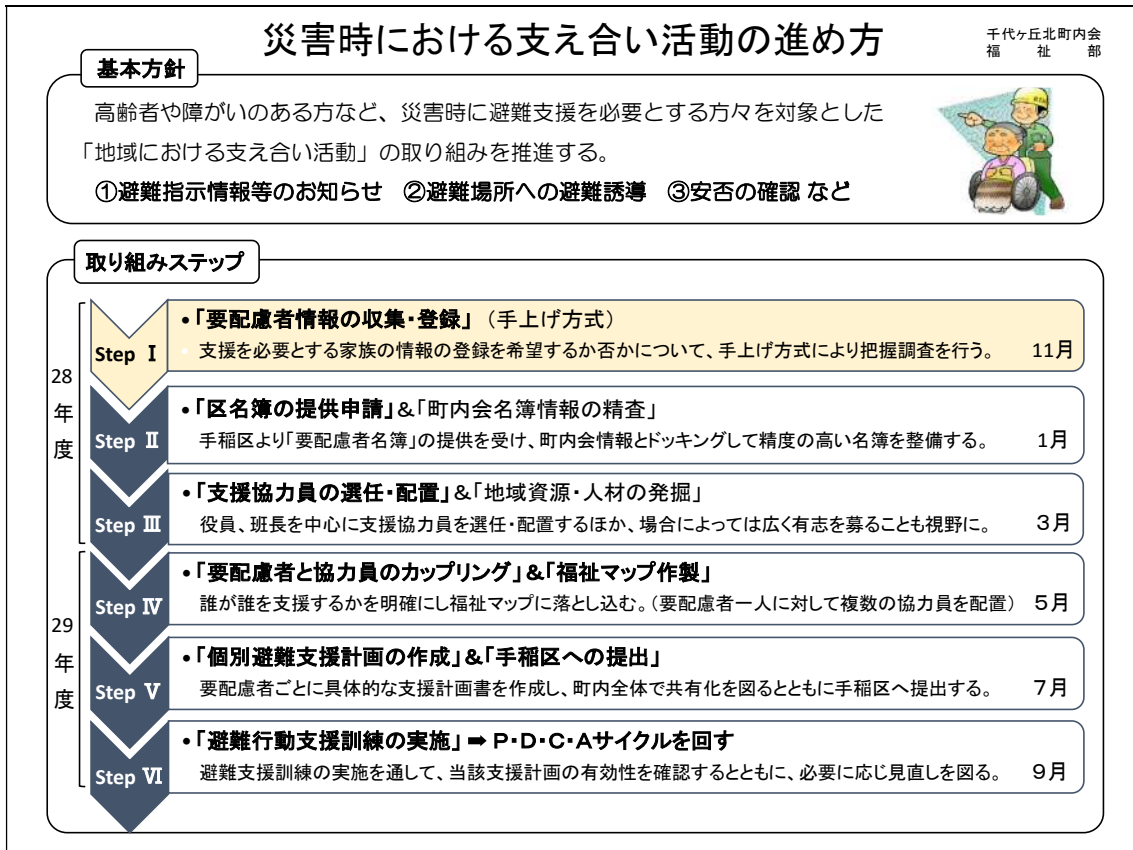
後日、避難支援の活動を進める中で「支援者が困っている事例」についてご相談頂きました。町内会としては支援が必要だと思っている方がいるが「そっとしておいてほしい」と関わりを拒否されているとのことでした。

当事業からは「急がない」姿勢で「気にしていますよ」という発信をしつつ「何時でも支援をできる体制を検討しておく」等のご助言させていただきました。現在は積極的



な支援を望まない方でも、日常の町内会との関わりの中で、少しずつ気持ちに変化がでてくることを期待しています。

手稲区 手稲千代ヶ丘北町内会 災害時支え合い活動取り組みステップ



参考資料

用語解説

要配慮者

災害が発生した場合、安全な場所への避難行動や避難場所での生活において大きな困難が生じ、まわりの人の手助けを必要とする人たちを、「要配慮者」といいます。これらの人たちには、災害時に特別な配慮が必要となります。例えば、移動が困難な人、車いす、補聴器などの補装具を必要とする人、情報を入手したり、発信したりすることが困難な人、急激な状況の変化に対応が困難な人、薬や医療装置が常に必要な人、精神的に不安定になりやすい人などです。

避難行動要支援者

要配慮者のうち、災害の発生又はそのおそれがある場合に、自ら避難することが困難で、その円滑かつ迅速な避難の確保を図るために特に支援を要する方たちを「避難行動要支援者」といいます。例えば、要介護の認定を受けている方、居宅介護、生活介護、共同生活援助、移動支援等の障がい福祉サービスの支給決定を受けている方、身体障害者手帳1～2級の方、視覚障がい、聴覚障がいのある方、療育手帳Aの方、精神障害者保健福祉手帳1級の方などです。

避難支援等関係者

避難支援等の実施に携わる関係者を「避難支援等関係者」といいます。災害の発生に備えて、避難行動要支援者本人の同意を得て、避難行動要支援者名簿情報の提供を受けられることができる団体です。例えば、単位町内会・自治会、連合町内会、福祉推進委員会、地区福祉のまち推進センター運営委員会、地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会、自主防災組織などです。

※ 札幌市要配慮者避難支援ガイドラインをもとに作成。ガイドラインは札幌市ホームページに掲載。

<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/fukushijosetsu/youhairyosya.html>



参考情報

ヘルプマーク・ヘルプカード

ヘルプマークとは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、外見からは分からなくても援助や配慮が必要な方のためのマークです。



平成 24 年に東京都が作成したもので、現在では多くの都道府県や市町村において配布が行われています。このマークを見かけた場合は、地下鉄やバスの席を譲るなど、思いやりのある行動をお願いします。

ヘルプカードとは、緊急連絡先や必要な支援内容などが記載でき、障がいのある方などが普段から身に着けておくことで、日常場面で困ったとき、緊急時、災害時などに、周囲の援助や配慮をお願いしやすくするカードです。

<p>おが お願いしたいこと</p> <p>自由記載 (お伝えしたいことなど)</p>		<p>あなたの支援が必要です。</p> <p>ヘルプカード</p> <p>SAPP 札幌市</p> 	表
<p>名前:</p> <p>生年月日:</p> <p>住所:</p> <p>緊急連絡先</p>	<p>血液型:</p> <p>性別:</p> <p>本人との関係:</p>	<p>障がいの種類など</p> <p>障がい名・病名:</p> <p>症状:</p> <p>かかりつけの病院</p> <p>病院名:</p> <p>先生:</p> <p>電話番号:</p>	裏

札幌市では、平成 29 年 10 月から、希望者に対し、ストラップ型のヘルプマークとマークがデザインされたヘルプカードを配布しています。



モデル避難計画

参考様式です。避難計画はご本人と一緒に計画を立てることが重要です。ふりがなは、漢字を読むことが苦手な方も読みやすいように付けています。

基本情報シート1		ちょうないかい 町内会	
いざという時に		かいちょう しめい 会長の氏名 (電話)	
こべつひなんけいかく 個別避難計画			
< 年 月 日 作成 >		作成者名:	
氏名:	さん	電話:	- -
住所:	丁目 番 号 (マンション名等 号室)		
●避難場所 基本的に以下の場所に避難しましょう。いくつかある場合は空白にご記入ください。			
(学校名)	住所:	電話:	- -
ご家族・連絡先等	<input type="checkbox"/> 一人暮らし	<input type="checkbox"/> 同居	<input type="checkbox"/> 別居
避難のお知らせ	<input type="checkbox"/> 必要ない	<input type="checkbox"/> 必要 (電話で 訪問して)	
避難場所への移動	<input type="checkbox"/> 自分で移動できる <input type="checkbox"/> 道具が必要 < 車いす つえ その他 () > <input type="checkbox"/> 介助が必要 < 体を支える 見守り その他 () >		
支援担当者 () 呼称については 町内会ごとに 道直変更してください	氏名	電話	- -
	氏名	電話	- -
	氏名	電話	- -
	氏名	電話	- -
	氏名	電話	- -



この様式は札幌市公式ホームページからダウンロードできます。

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/anshinnomati/index.html>

基本情報シート2

配慮してほしいこと、 知ってほしいこと	いつも使用	つえ 車いす メガネ 入れ歯 ()
	アレルギー	ない ある ()
	服用薬	「おくすり説明書」添付 (あり・なし)
	かかりつけの病院	(電話 - -)
	主な病気	
その他	<input type="checkbox"/> 見えない (見えにくい) <input type="checkbox"/> 音が聞こえない (聞こえにくい) <input type="checkbox"/> 文字や言葉の理解がむずかしい <input type="checkbox"/> その他 ()	
特記事項		

緊急時連絡先一覧

氏名 (関係・団体名)	連絡先	備考
()	電話: - - 住所:	
()	電話: - - 住所:	
()	電話: - - 住所:	
()	電話: - - 住所:	
()	電話: - - 住所:	



追加情報シート2

自由記述欄 自由にお使いください

※ご本人もしくは、作成者とご本人が相談をして作成してください。

※それぞれの町内会で避難計画書を用意している場合があります。一緒に計画を立てる場合は、当様式にこだわらず、記入しやすいものをご使用ください。また、写真を貼ったりするなど、ご自身に合った避難計画書を作成してください。

※災害が起ると、電気や水道、ガスが止まり、福祉サービスや医療もすぐには受けられないことがあります。少なくとも3日間分の食料や必要なものを用意しておきましょう。万が一に備えて、利用している福祉事業所や医療機関に相談することも大切です。





札幌市は「心のバリアフリー」の更なる推進を目指し、心のバリアフリーを推進するシンボルとして「心のバリアフリー推進マーク」を作成しました。心のバリアフリーとは、障がいのある方等に対する差別や偏見といった心の障壁（バリア）を取り除き、お互いを認め合い支えあうことです。

札幌市委託事業

誰もが住みやすいあんしんのまちコーディネート事業

さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール

<https://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/anshinnomati/index.html>